

令和6年度第1回亀岡市総合戦略推進会議 議事要旨録

日 時:令和6年8月28日(水) 10時00 分～12時00 分

場 所:亀岡市役所 602・603 会議室

出席者:鈴木康久委員長、川勝啓史副委員長、河原重好委員、多胡麻衣委員、柴田晃正委員、古澤明委員、山本寛委員

議 題 1. 開 会

2. 委員長選出

3. 副委員長選出

4. 議 事

・(1)デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る検証について

・(2)地方創生応援税制に係る寄附(企業版ふるさと納税)に係る検証について

5. 閉 会

1. 開会、政策企画部長あいさつ

2. 委員長選出

事務局

・委員長の選出を行う。

・要綱では、委員の互選によって定められているが、事務局としては、前任期に引き続き京都産業大学の鈴木委員にお願いしたいが、いかがか。

～委員一同 異議なし～

事務局

・それでは、鈴木委員に委員長をお願いする。

委員長 あいさつ

・亀岡市の人口は自然動態では減少しているものの、社会動態でみると増加しており、市が地方創生の取組に力を入れていることのあらわれだと認識している。

・「亀岡が良いまち」であることを多くの方々に知ってもらうことが、今回取り上げる事業に共通する趣旨になると考えている。

・非常に事業が展開されているように見受けられる。委員の我々としても、さらに良くなるよう事業の評価をしようと思っているので、どうぞよろしくお願いする。

3. 副委員長選出

事務局

・次に、副委員長の選出を行う。

・要綱では、副委員長は委員のうちから委員長が指名することとしている。それでは委員長からご指名いただくようお願いする。

委員長

・副委員長は、前回に引き続き川勝委員にお願いしたい。

事務局

・それでは、川勝委員に副委員長をお願いする。

副委員長

・亀岡市は子育て施策で先進的な例を作っているが、市中心部の人口減少といったまちづくり上での問題や公共交通機関に関する問題など、取り組むべき課題も多岐にわたる。

・今後も地方創生を推進していかなければならないと思っている。どうぞよろしくお願いする。

4. 議事

(1) デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)に係る検証について

○事業No.1『子育て、子育てにやさしい』京都創生プロジェクト事業』について説明(事務局)

○事業No.1に係る質疑・意見

委員長

・京都府全域の中で、亀岡市の取組はどのような位置付けとなっているのか。

A 委員

・京都府が「子育て環境日本一」を掲げているなかで、亀岡市においては子どもファーストを宣言するなど、積極的に子育て施策に取り組んでいる。

・京都府で実施したアンケート調査では、子育てに対して「大変そう」や「難しそう」などのネガティブなイメージを抱いている中高生が多い。

・京都府では、子どもたちだけで街の商店街などを1日運営してもらう事業を始めるところであり、子どもたちの笑顔が若者の目に触れる機会を作ることを目指している。亀岡市においても、中高生や20代の方々に子育ての実態がそれほど悪いものではないことをPRするような施策をやっていくと良いと思う。

B 委員

・資料にある、起業検討者向けセミナーの内容はどのようなものか。また、働き方改革ツールキットとはどのようなものか。

企画調整課

・空き家バンクの利用登録や移住セミナー、移住フェアを通してつながった方々の中には亀岡で起業したいと感じている方が一定数おられたことから、起業検討者向けセミナーを実施した。セミナーでは、ア

ウトドアメーカー・モンベルの創業者である辰野氏と、空き家改修のプロフェッショナルで亀岡在住のアレックス・カー氏の2名をお招きし、起業する上での心構えや亀岡という土地のポテンシャルについて発信いただいた。セミナー当日には40名ほどの方に参加いただき、そのうちの1組の方は現時点で、起業に向けて物件を探す段階まで進んでいる。

・ツールキットは、亀岡市内で実際に働いている方や就職活動中の大学生、育児休暇から復帰された方などにヒアリングを実施し、そこで出た意見をカードにまとめたものである。カードゲームを楽しむ感覚で亀岡市内の企業における実情を知ることができ、その状況に対しての解決策を考えるきっかけとなるツールキットとなっている。

B 委員

・起業検討者向けのセミナーについてはこれからも継続していただきたい。

委員長

・実際に亀岡で起業した方から話を聞くことができる機会は珍しいと思うので、ぜひ継続していただきたい。ツールキットについても、ゲーム感覚で楽しみながら自身の考え方を整理することができると思うので、ぜひ継続して取り組んでいただきたい。

・これまでの取り組みは移住促進にも関連してくると思うが、移住に対する自治会の雰囲気はどのようなものか。

C 委員

・地元自治会では若い世代の方も会議に出られたりするが受け身の姿勢であることが多く、町内では移住促進に対して積極的な姿勢はあまり感じられないのが現状である。

委員長

・移住促進にコミットできる環境整備が重要である。

副委員長

・定住という観点では、若者が仕事を求めて亀岡市外に転出するという状況に歯止めをかけることが重要だと考えている。まずは亀岡市内にどのような企業があるかを知ってもらい、地元企業に関心を持ってもらうことを意図して、市内の小学生に各企業を見学してもらう取組を以前実施した。

委員長

・子どもたちに体験してもらうという観点では、先ほどの古澤委員の意見に通じるものがあると考えている。

B 委員

・若者が市外に転出する状況に歯止めをかけるために、何を改善すればよいと考えているか。

企画調整課

・亀岡市内の大学生や京都市内で働いている 20 代前半の方々を対象に実施したヒアリングでは、亀岡市内の中学校に通う子供たちの半数以上が京都市内の高校に通っており、就職に関しても京都市内や大阪方面に意識が向いており、亀岡市内での就職を考えていない人が多い。

・その対策として、優良な取組を実施している本市の企業を取材し、その内容をホームページで公開するなど取り組んでいるが、若者への効果的な周知方法が今後の課題である。

委員長

・実際の状況を体験してもらうことは重要である。

・亀岡市に居住する方に住み続けてもらうことを重要視して取り組んでいくのも、数ある手法のうちの1つである。

○事業No.2「あなたとともに『心やすらぐ地域の暮らし』を ～みんなが主役の地域復興事業～」について説明(事務局)

○事業No.2に係る質疑・意見

D 委員

・若い方々にとって転職は当たり前であり、1つの場所に住み続けるという意識も強くないなど、現代の子ども世代と親世代の間では価値観がかなり異なっている。そのような価値観の違いを念頭に置いて事業に取り組まなければ互いの認識にミスマッチが生じてしまうため、フォローが必要になってくると思う。

A 委員

・行政における文化のウエイトが高まってきている。かつては保存することに重点が置かれていた文化財が、観光の分野をはじめとして、積極的に活用する時代となった。そのような中で、市としては文化資料館をどのような方向に発展させようと考えているのか。また、今回の企画展、特別展や来年度以降の展示はその方向性とどのような関係にあるのか。

文化芸術課

・文化を積極的に活用するという観点は重要だと考えており、現在進めている文化博物館の新設や来年度以降の企画・特別展についても、そのような視点を取り入れて進めていく。

委員長

・農林振興課では「食」についてのプログラムを実施しているが、食の展示会を行うことによって、周辺の飲食店が呼応して伝統食を提供するという産業的なプログラムを成立させ、消費拡大につなげていけるとよい。

C 委員

レンタサイクル事業について台数および利用率はどれほどか。また、観光客はレンタサイクルでどのように亀岡のまちを見てまわるのか。

商工観光課

- ・レンタサイクルは亀岡市内4か所に計20台設置しており、内訳としては亀岡駅の北口と南口に5台ずつ、千代川駅に4台、トロッコ亀岡駅に6台である。
- ・令和5年度には延べ1,100台の利用があり、今年度については4月から7月の4カ月で500台程度の利用があった。4月の桜シーズンと11月の紅葉シーズンにレンタサイクルの利用が大きく伸びる傾向がみられ、亀岡を訪れる方々が自然を感じることに重きを置いていると考えられる。今後は市内の飲食店とタイアップするなどしながら、利用率の向上に努めていきたい。

C 委員

- ・季節によって利用の状況が異なってくると思うので、自転車の台数などは適宜調整してもらいたい。
- ・改修された空き家を見てもらうような案内を行うと移住促進につながる。

委員長

- ・レンタサイクル事業のチラシを作成いただき、主な対象として京都市内の方に向けて発信していくのも良いと思う。

副委員長

- ・建築住宅課でさまざまな補助を実施されているため、市営住宅では空き家があまりないと認識しているが、一方で府営住宅では空き家が増加していると聞いている。条例等の関係で難しいのかもしれないが、そのような空き部屋を子育てや起業目的でどうにか有効に使えないかと思っている。
- ・地域の歴史に即した特産品や食品を押し出すなど、文化を上手く活用していく意識が必要になっていくと考える。

委員長

- ・多くの方々に、亀岡について知っていただくことが何より重要であり、地域の歴史を通して特産品に触れることで消費拡大につながり、本市の豊かな自然に触れることで移住促進に繋がっていく。少し先の未来を見据えながら事業に取り組んでいただきたい。

○事業No.3「移住促進により地域を元気にするプロジェクト『移住するなら京都』」について説明(事務局)

○事業No.3に係る質疑・意見

E 委員

- ・空き家に関して、市場での金額と移住者が希望する金額には大きな乖離がある。市街地にある空き家

の金額では移住者の希望と噛み合わず、田舎の方に物件を求める方が多いという実態があると感じる。
・補助金の存在自体が移住をする上での1つの決め手となっていると思われる。引き続きこの施策は必要になると考える。

建築住宅課

・当補助金については、空き家バンクに登録をされている方が対象となっており、それ以外の方については対象外となっている。この制度は京都府の補助金も活用しながら実施しているため、継続して取り組んでいく。

委員長

・民間企業からこの補助金制度を紹介することはできないということか。

E 委員

・民間企業と市が連携できる体制があるため、空き家バンクに登録してもらえれば制度を活用することは可能である。

委員長

・官民一体となって取り組むことができる事業であると理解した。

B 委員

・現状は空き家を探し切れていない、見つけきれないという感触を抱いているので、亀岡市内だけでなく京都府下全域において、空き家バンクへの空き家登録を継続してアナウンスすることが必要になると考える。そのようにして、移住希望者に補助金を活用してもらえる機会をより増やしていかなければと考える。

委員長

・行政機関と金融機関、不動産の機関が協力して進めていくべきところであり、経済的に合わない部分を埋められる制度や補助金があれば良いと考える。
・京都府としては、空き家改修への補助金制度についてどう考えているのか。

A 委員

・府全体で人口が減少しているなか、府内いずれの地域にも移住者を獲得してもらう目的で補助金制度を実施しているが、個人資産への税金投入という意味合いも含まれており、過度な交付には抑制的でなければならないとも考えている。時代が進むにつれ、社会的に税金投入が許容される部分は変わってくるので、その辺りのバランスを考えながら施策を変化させていくことになると思う。

委員長

・より多くの方々にこの補助金制度を活用してもらい、亀岡に移住してもらえるように事業を進めてもら

えると嬉しく思う。

(2)地方創生応援税制に係る寄附(企業版ふるさと納税)に係る検証について

○事業No.4『子育て、子育てにやさしい』京都創生プロジェクト事業』について説明(事務局)

○事業No.4に係る質疑・意見

D 委員

- ・【個別事業 IV について】食材を配布することだけが本事業の目的ではなく、配布先の家庭にどのような問題や不安があるのか、子どもたちがどのような状態なのかをしっかりと把握することが重要である。
- ・実際に各家庭を訪問する事業者はそれらを正確に把握することが求められるが、どのような事業者がこの業務を委託しているのか。

こども家庭課

- ・委託先の事業者については、一般企業や NPO、子ども食堂を実施されている方などが多く、保育など専門職の方がおられるところだけではない。しかし、令和3年から事業を継続するなかで事業者との会議を何度も開催しており、事業者の施策に対する理解が年々深まっていることを実感している。
- ・訪問先の家庭に何かしらの危惧すべき点がみられた時点で、事業者と連携を取りながら、当課としても見守りの体制を強化するという流れを取っている。

D 委員

- ・訪問者の質は極めて重要になるので、事業者と行政が互いに成長していただけるとよい。

委員長

- ・家庭を訪問した時の状況をメモに残すなどのルールを定めるようにすると、各事業者間で生まれる細かな対応の差を無くすことができるかもしれない。
- ・【個別事業 I について】商工会議所としてはどのようなメリットがあるか。

副委員長

- ・このようなイベントを通じて亀岡について知ってもらい、あるいは興味を持ってもらうことで、新たな街づくりに繋がっていくと考える。

委員長

- ・このイベントを通じて亀岡市にはどのようなメリットがあるのか。

文化芸術課

- ・本イベントは亀岡市外からの来場者が大変多いことを踏まえ、移住促進や観光に関わる部署にも協力いただいている。単なる音楽イベントというだけではなく、亀岡を PR する場としての側面も有している。

委員長

・商工会議所との連携をする中で、亀岡の魅力ある食材を打ち出していくなどの動きがあるとさらに良いのではないかと感じている。

B 委員

・ジャズフェスティバルについては、継続して実施していくことが重要である。
・亀岡市は子育てを中心に施策を進められており、安心して子育てに取り組める街だということを私自身も実感しているところである。ただ、さまざまな素晴らしい施策があるなかで、外部への発信が不足している現状がもどかしく思われる。我々民間としても、発信に関して協力をしていきたい。

委員長

・民間企業との協力も前向きに取り組んでいただきたい。

C 委員

・【個別事業 III、IV について】KPI に関して、待機児童数の項目が指標値を達成できていない状態であるが、「こどものあそびば遊具等点検・保守点検事業」と「子ども宅食見守り事業」を今後どのように展開していくのか。また、新しい事業を実施することも考えているのか。

委員長

・待機児童数についての現状も教えていただきたい。

子育て支援課

・市内外、公立や民間を問わず保育士不足であることが待機児童数増加の一因であり、子どもファースト施策を進めるうえでの大きな課題となっている。そのような状況において、小規模保育を受け入れる事業者の募集や、保育士の奨学金を一部助成する事業も進めている。他市にはない新たな取り組みを実施しつつ、子育てに優しい街づくりを進めていく。

C 委員

・待機児童が多い点は大きな課題である。なかなか施策が打ちづらいところもあるだろうが、現状の改善につながるような事業を検討いただきたい。

委員長

・待機児童ゼロというのは施策としてよく謳われることであり、ベストを尽くして取り組んでいただきたい。
・奨学金を免除あるいは補助するという施策を行えば、就職先として亀岡を選ぶ方も増えるのではないかと考える。

A 委員

・【個別事業 II について】川ごみを減らすことが海ごみの削減に繋がるという説明を聞き、素晴らしい事

業であると感じた。ただ、事業名に「海ごみ発生源対策」などのフレーズが入っている方が、事業内容について誤解されにくいと考える。

委員長

・事業名は受け手にそのまま伝わるので、またご検討いただきたい。

環境政策課

・内陸部の市町村として初めて海ごみサミットを開催したのが亀岡市であり、本市の取り組みが日本全体の海ごみ減少に繋がることを理解いただけると幸いである。川ごみが巡り巡って我々たちの体内に取り込まれていくことを少しでも減らしたいという思いで取り組んでいる事業である。

A 委員

・事業名を工夫することで、内陸部の市町村として先進的な事業に取り組んでいることがより効果的に伝わりやすくなるはずである。

委員長

・事業名を変更するのは容易でないと思うが、ぜひご検討いただきたい。

D 委員

・京都市の梅小路公園で開催されている音楽フェスティバルでは、イベント中に出た生ごみをコンポストにする事業を行っており、音楽と環境を繋げて発信している。亀岡市も「世界に誇れる環境先進都市」を掲げているのだから、環境を前面に押し出したイベントが育っていけば良いと思う。

・他府県の方から見ても、亀岡は環境分野で非常に先進的な街という印象があるようである。今一度、市民が自身の街の特長を理解して発信し、さらには事業にも反映していけば、亀岡で生まれ育った子供たちがふるさとの素晴らしさに気づいて戻ってくるという現象も起こるのではないかな。

委員長

・様々なものを組み合わせた事業を進めていくことが求められていると思われる。

・企業版ふるさと納税については令和5年度に3,600万円ほどの寄附があったとのことであるが、非常に有効に活用していると思われる。寄附を行った企業名がさまざまなところに現れると、事業にコミットしていることを寄附企業により強く認識してもらえるのではないかと考えるので、その点も検討いただきたい。